



ヨルダン活動報告



アッサラーム アライクム！（アラビア語で「こんにちは」）

السلام عليكم

Topic 01 自己紹介

私は2023年10月から2025年10月まで、JICA海外協力隊としてヨルダンで活動しています。首都アンマンにあるヨルダン大学に所属し、日本語の授業をしたり、イベントをしたりしてきました。日本語は学科ではないものの、アニメや日本文化に興味を持つ学生が数十名いて、楽しく日本語を学んでいます。そのほかにも、日本語を学ぶ人々を対象にした会話クラブや、日本語弁論大会を開催したりしました。今日は、私が住んでいるヨルダンについて少しご紹介します。



大学で授業をしているところ



首都アンマンにあるローマ遺跡

ひとことアラビア語

شكرا

シュクラン
（ありがとう）

うねうねしていて難しそうなアラビア語ですが、実は31文字しかありません。ひらがな50、カタカナ50、漢字たくさん…に比べたら簡単かも？！

Topic 02 ヨルダンってどこにあるの？

日本から西に約9000km離れたところにあります。大きさは日本の4分の1くらいで、人口は日本の10分の1くらいです。時差はマイナス6時間。日本が午後3時なら、ヨルダンは午前9時です。日本とほぼ同緯度があり、春夏秋冬もあります。公用語はアラビア語です。



Topic 03 ヨルダンにはなにがあるの？

泳がなくても浮くことができる死海（写真左）は、世界で一番海拔が低い場所としても有名です。またヨルダンには7つの世界遺産があり、ペトラ遺跡（写真右）、広大なワディラム砂漠などがあります。



Topic 04 ヨルダンの生活について

ヨルダンは国民の約90%がムスリム（イスラム教徒）で、羊肉や鶏肉を使った料理が多いです。少数ですがキリスト教徒もいるので、豚肉やお酒を買うこともできます。最近では日本でもヨルダンワインを買うことができますよ！

また、ヨルダンでは新鮮な野菜や果物を日本より安く買うことができます。1kg単位で値段がついており、トマトは1kg=約70円、オレンジは1kg=約150円です。



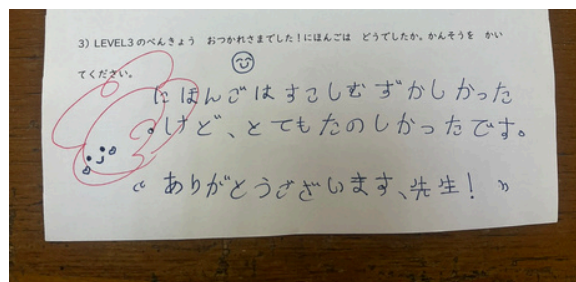
左：近所の八百屋さん
右：お肉屋さん



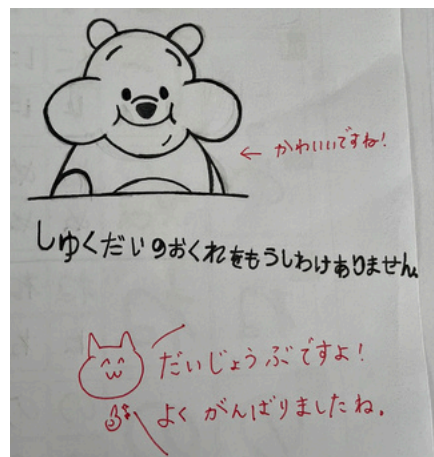
Topic 05 ヨルダンで日本語を学ぶのってどんな人たち？

ヨルダンでは日本のアニメやマンガが大人気で、「アニメやマンガの言葉を理解したい」という思いで日本語を勉強する人が多いです。学生たちは、好きなアニメのキャラクターをスマホの待ち受け画面に設定したり、シールを教科書に貼ったりと、推し活(?)に余念がないようです。また、アニメで日本語を覚えたという人もたくさんいて、日本から遠く離れた国で日本語を勉強してくれているということや、翻訳サイトを使いながら一生懸命日本語を話す姿には胸を打たれます。一方で、そのガッツは素晴らしいのですが、アニメで覚えたのか、「おい、先生!」とか「お前の名前は何?」などと言われることもあり、「正しい日本語」と「場に応じた適切な日本語を使うこと」は別物であることも伝えるようにしています。また「海外で日本に興味を持っている人=アニメやマンガ」というイメージがありますが、必ずしもそのような人たちばかりではなく、詫びさびの考え方が好きだという人や、和太鼓に憧れて日本語を勉強し始めたという人、日本のお笑いが好きでM1を毎年欠かさず見ているという人までいます。

ちなみにヨルダンには、隊員のほかにヨルダン人の日本語教師もいて、民間の語学センターなどで活躍しています。授業を見学させてもらったことがあるのですが、ノンネイティブならではの視点や説明の仕方がとても勉強になりました!



学期終わりにある学生からもらったコメント



宿題の提出が遅れた学生からのコメント (笑)

Topic 06 ヨルダンにおける日本とは…

ヨルダンと日本は2024年に国交樹立70周年を迎えました。最近では、大阪万博でヨルダンパビリオンが人気になるなど、ヨルダンと日本のつながりを感じるニュースに触れる機会がありましたが、日本ではまだまだマイナーな国の1つなのではないかと思えます。一方、ヨルダンは非常に親日的な国で、こちらが日本人だと分かるととても歓迎してくれます。その親日感情をひも解いていくと、日本製品の質の良さや技術力に対する信頼が大きいと思われれます。ヨルダンの街中で日本車が走っているのを見かけることもあり、「私は日本人です」と言うと「トヨタ! ホンダ!」と言われることが多々あります。

また、日本に対する仲間意識のような繋がりを感じている人も多いように思えます。日本の文化や歴史に敬意を持ってくれていることがうかがえ、特に原爆のことや戦後復興についてよく知っている人が多いのには驚きました。日本が戦争をしていない、平和な国であるというところに、リスペクトの念を抱いてくれているようです。

そういえば、以前タクシーの運転手さんと話していた時、私がJICAの協力隊員として活動していることを話すと、「俺の家族が前にJICAと一緒に働いていたんだ!」と教えてくれたことがありました。そのタクシーに乗っている間、終始明るく話しかけてくれ、最後には記念に私の名前をアラビア語で書いて渡してくれました。このように「日本人と会ったことがあるから、その時の印象がとてもよかったから」という理由で、見ず知らずの私たちにまで温かく接してくれる人がたくさんいました。この信頼は一朝一夕にできるものではなく、先人たちの積み重ねがあってこそだと実感した出来事でした。帰国まで残りわずかですが、そのことを胸に刻んで、残りの任期を全うしたいと思います。



世界遺産、ワディラム砂漠で見た2025年の初日の出